

茶飲み話をチラシの裏に

板井長寿会

「稻穂」、米の集まりで、穏れば穏る程、首をたれるもの。本もページの集まりであり、また、その謙虚な心を持ち続けたいと、今年の三月に板井長寿会（板井の老人クラブ）から、発行された本の題名である。

当時板井長寿会の会長、佐々木さんに「稻穂」についてお話を伺った。

「長寿会は、ゲートボールや雑巾集めなどのボランティアを、主体に活動をしてきた」二年前に長寿会の会長になって、「今まで教養活動をやつたことがなかった。そろそろ、何かをしなければ」と思っていたところ、教育委員会主催の寿学級で、『原稿用紙の使い方』教室があり、長寿会のメンバー五人が参加した。「これらったら我々でも書けるんではないか、教養活動として文集を出そうか」ということで気持ちが徐々に高まり、文集作りが始まった。

手作業の農耕、衣、食、住、冠婚葬祭、お祭り、寺お講、時斎お取越、日常生活の中の言葉、兵隊のことなど「大正から、終戦後の物資のない時代までの生活は、現代の人たちからみると、想像つかないものであり、この時代に体

と自分で得た貴重な経験を書き残す」といえば苦しいが、「普段の茶飲み話でしゃべっていることを、まずチラシの裏にでも書いてみよう」と作業を続けた。

長寿会は、二百二十人ほど会員

「本当は、普段茶飲み話に、先祖がいる。半分の百人から書いてもらえ、立派な本になる。自分たちの記念にもなると始めたものの、原稿書きで一年、編集、印刷で一年かかったという。

「本當は、普段茶飲み話に、先祖

写真／上 今回板井長寿会から出版された「稻穂」。64人の著者からなるA5サイズ、200ページの体验記である。
下／取材に応対してくれた、元板井長寿会の会長、佐々木さん。

もよいから書いて欲しかった。言い伝えを残したかった」と佐々木さん。「実際、本当に面白い話しさは、恥ずかしがって、中々書いて貰えなかつた。が、書いた人は本が出来上がって、大変喜んでいた」。

「稻穂」は、板井の方々からの寄付と、会費を使って印刷され、一冊千円で板井の集落に二百二十部配布された。読んで見たい方は、役場に数冊ありますのでご連絡を。



(人の動き)		
4月末日現在	(前月比)	(前年比)
人口	24,369 (+ 80)	[+ 396]
男	11,933 (+ 40)	[+ 159]
女	12,436 (+ 40)	[+ 237]
世帯	7,121 (+ 68)	[+ 315]
4月1日～末日		
出生	19	転入 198
婚姻	35	転出 120
死亡	17	

◎さて、来月号では、六月十六日に開催される町民親善大運動会などをお伝えする予定です。

が実は長野から来たとか、書いて欲しかった。我々の親の時代は、十人に一人位しか、字が書けなかつたので、言葉でいろいろなことを、語り継いできた。が、最近は皆、字が書けるので、いつでも子供に伝えることができると思い語り継がなくなってきた。だから

◎表紙の写真は、宮のもり木場城公園です。